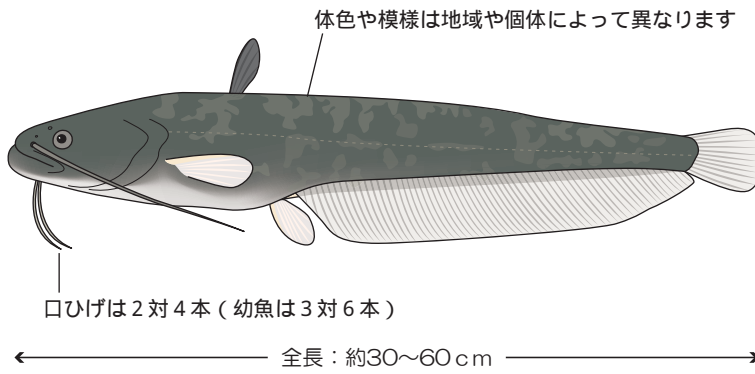


別名：ヘコキ、マナマズ



**メモ** ナマズの「ナマ」は鱗がなくなめらかな体を、「ズ」は扁平して大きい頭を示しているといわれています。

### 分布

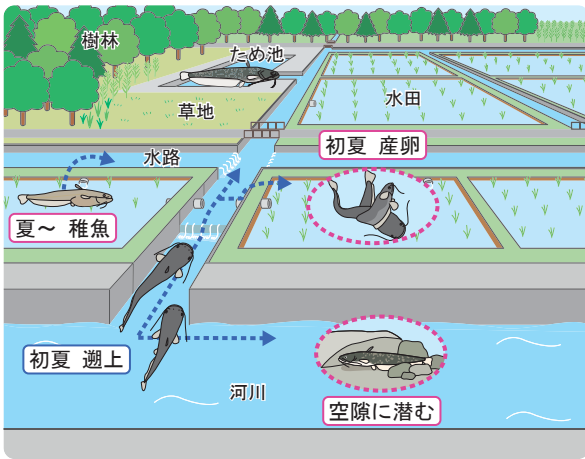
日本各地に分布します。本来の分布は西日本で、関東地方に進入したのは江戸時代、北海道に達したのは大正時代といわれています。



●：「田んぼの生きもの調査」での確認箇所

### 生態

----▶：本来の移動経路    ◯：生息環境



### 主な産卵環境と生息環境

◀▶：主な生息環境

樹林・草地	ため池	水田	水路	河川	海
		産卵			

### 生活史

河川や池に生息し、昼間は空気に隠れ、夜間に活動します。初夏に、河川から水路、水田に遡上し、産卵します。ふ化後、水田で成長した稚魚は、落水時には常時湛水域に移動します。

### 写真



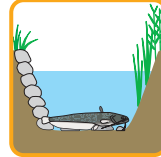
夜間活動し、大きな口で小魚やカエル類などを捕食します。水田生態系における食物連鎖の上位に位置し、餌となる生物の生息環境が良好でないと、ナマズも生きていくことができません。

### 配慮対策

#### 生息環境の確保 空隙の創出

##### 環境配慮型水路の対象工法

##### 水路護岸

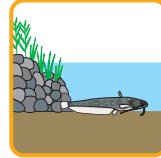


##### 【水路護岸】

- かご系 p.74
- 木系 p.75
- 自然石系 p.76
- 二次製品系 p.77
- 複合系（井桁護岸） p.78

##### 保全池・ビオトープの対象工法

##### 池護岸



##### 【池護岸】

- 自然石系 p.85
- 複合系 p.86
- （捨石等による緩傾斜護岸）
- かご系 p.87
- 木系 p.88
- 二次製品系 p.89

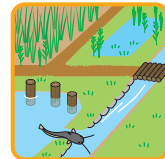
#### 【配慮ポイント】

・隠れ場所となる空隙を形成する工夫が必要です。

#### 常時湛水域の創出

##### 保全池・ビオトープの対象工法

##### 池、水路、 湿地の創出



##### 【池、水路、湿地の創出】

- 保全池 p.90
- 承水路 p.91
- 耕作放棄地等の  
ビオトープ化 p.92

#### 【配慮ポイント】

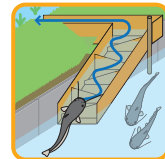
・中干し等の落水時において退避場所となる常時湛水域を形成する工夫が必要です。

#### 移動経路の確保

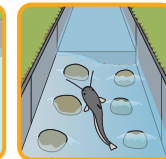
#### 水田と水路間の落差の解消、水路内の落差の解消

##### 魚道の対象工法

##### 水田魚道



##### 水路魚道



##### 【水田魚道】

- 隔壁型（千鳥X型） p.57
- 隔壁型（ハフーン型） p.58
- 排水路堰上げ式 p.59

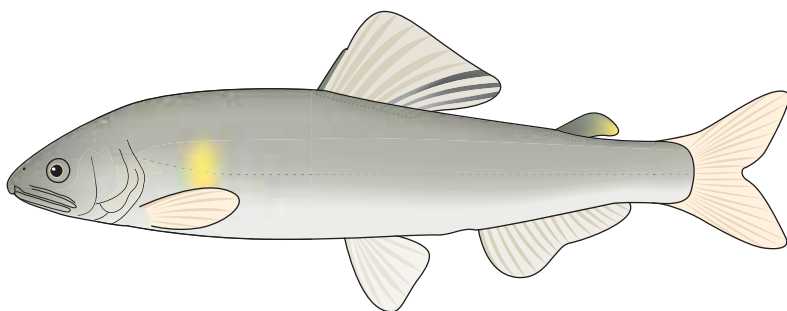
##### 【水路魚道】

- 階段型 p.61
- 隔壁型（千鳥X型） p.62
- 隔壁型（ハフーン型） p.63
- 片斜面粗石付魚道 p.64

#### 【配慮ポイント】

・水路を経由して水田に遡上、産卵するため、水路魚道・水田魚道を設置します。体が大きくなるものがあるため、魚道の水深と幅を大きくとります。

別名：アイ



全長：約10~30cm

**メネ** 背側は青みがかったオリーブ色で腹側は銀白色。唇にある櫛状歯で川底の石の表面に付着する珪藻や藍藻をこそぎとるので、“はみあと”が残ります。

分布

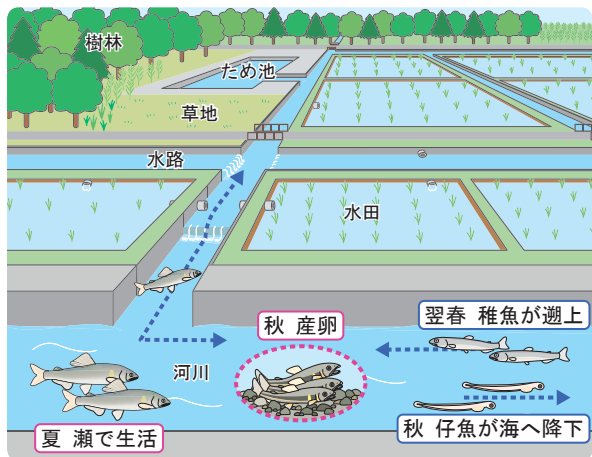
北海道西部以南の日本各地に分布します。

奄美大島と沖縄に生息するものは、別亜種のリュウキュウアユです。



●：「田んぼの生きもの調査」での確認箇所

生態 ----- : 本来の移動経路 (---) : 生息環境



主な産卵環境と生息環境 <---> : 主な生息環境

樹林・草地	ため池	水田	水路	河川	海
				産卵	

生活史

河川の瀬に生息し、石に付着した藻類を食べて生活します。秋に瀬の砂礫底で産卵します。孵化した仔魚は海まで降下し、翌春、稚魚が河川へ遡上します。

写真



アユは古くから食用として利用されており、河川における重要な漁業対象種となっています。アユのなわばり行動を利用した友釣りや、魚を丸飲みする鵜の習性を利用した鵜飼いや、各地で独特な漁法がみられます。

配慮対策

生息環境の確保

瀬の砂礫底の創出

環境配慮型水路の対象工法



【水路断面】  
瀬・淵

p.69

【配慮ポイント】

・生息および産卵環境となる、瀬の砂礫底を形成する工夫が必要です。

移動経路の確保

水路内の落差の解消

魚道の対象工法



【水路魚道】

- 階段型 p.61
- 隔壁型（千鳥X型） p.62
- 隔壁型（ハコ型） p.63
- 片斜面粗石付魚道 p.64

【配慮ポイント】

・水路における生息と遡上・降下を配慮して、水路魚道を設置します。体高が低くて遊泳力も強いいため、いずれの魚道タイプも適用できます。